



2026・10・22

<展開催 開催のお知らせ>

あいおいニッセイ同和損保が所蔵する「椿絵 コレクション」は椿をテーマとした、日本画、油彩画、版画などの絵画に加え、陶磁器、漆器、銅器などの工芸作品と多様で、古くは安土桃山、江戸時代から明治、大正、昭和の近現代まで幅広い時代を網羅していることで知られています。あいおいニッセイ同和損保はそこからテーマを定め、作品を選定、カレンダーを制作して多くの皆さまに親しんでいただいております。年末に開催するこの展覧会では、そのカレンダーの原画を中心に作品を展示します。今回はこれに加え、新しい試みとして昨年末に開催した若手作家による椿絵展の作品をあわせてご覧いただきます。

■展覧会概要

タイトル	「緑輝く中に咲く」あいおいニッセイ同和損保椿絵コレクション展
会期	2026年 11月28日(土) ～ 12月24日(木) 11:00 ～ 19:00 (月曜定休・最終日 17:00 まで) 【入場無料】
会場	UNPEL GALLERY 東京都中央区日本橋 3-1-6 あいおいニッセイ同和損保八重洲ビル 1F
椿絵コレクションから	堀文子、青山巨幹、熊谷守一、小倉遊亀、徳岡神泉、児島善三郎、富田溪仙、川合玉堂、横山大観
参加作家	UNPEL GALLERY 開廊5周年記念展「共鳴－椿絵コレクション×現在の作家たち」(2025年11月開催) から 土田翔(大賞)、北川由希恵(優秀賞)、中嶋純花(準優秀賞)
展覧会内容	近年の地球温暖化による気候変動によって私たちは、否応なく自然環境を保全する思考が求められています。それを喚起するような国際的なイベントも各地で開かれ、緑化への関心がさらに高まっています。そうした啓蒙活動にも寄り添い、当社の2027年椿絵カレンダーのテーマを「緑輝く中に咲く」としました。 古くから吉祥花として知られている椿ですが、様々な色合いの花の美しさを一層鮮やかにひきだしていますのが常緑の葉です。この変わらぬ特質を捉えて、緑輝く中に咲く個性的な椿を描いたカレンダー原画6作を中心に、冬から春への希望を喚起する横山大観や川合玉堂、富田溪仙らの掛軸と、さらに現代の若手作家たちが先達たちの椿絵に共鳴して描いた作品などを併せて展示します。
主催	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
企画	UNPEL GALLERY

<ご連絡・お問い合わせ先>

ギャラリーオフィス 11:00～19:00 月曜定休 (担当 / 井上・渡邊)

E-mail / tsubaki@unpel.gallery <https://unpel.gallery/>

TEL / 03-3548-7780 FAX / 03-3548-7781 * お問い合わせは E-mail にてお願いします

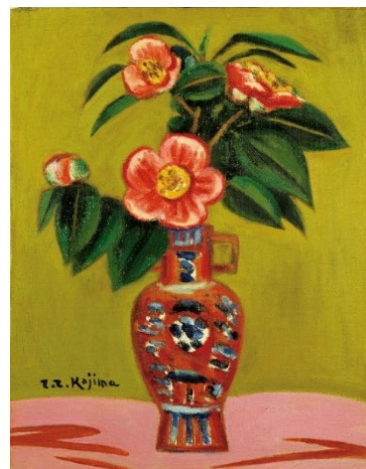
【 展示予定作品（椿絵コレクション） 】

《 カレンダー原画 》

児島善三郎 (1893-1962)

児島善三郎は福岡市生まれ。

医学専門学校を中退し、本郷洋画研究所に学ぶ。
二科展に出品し、1925 年から 1928 年にかけて
フランス留学。ドランやマティスに傾倒し、日本的な
フォーヴィスム(野獣派)の代表的な画家として活躍。
この絵の明快で豊かな色彩配置は装飾的だが、もの
の重たさを感じさせる表現は、いわば琳派的なフォーヴィ
スムとでもいえそう。理知的なのに、どこか温か味のある
作風が児島の持ち味。



《支那壺に椿》
1930-40 年代
油彩

その他 堀文子《繚乱》、熊谷守一《春の日》、小倉遊亀《椿》、
徳岡神泉《紅椿》、青山巨幹《大虹》

《 吉祥を呼ぶ掛軸形式の作品（縦幅）＝「立て福」 》



川合玉堂
《椿花小禽図》
1912 年頃 絹本着色



横山大観
《雪旦》
1926 年 絹本墨画淡彩



富田溪仙
《園中春暖図》
1933 年 絹本着色